

殺虫剤

第 16758 号

トレボン® 乳剤

種類名：エトフェンプロックス乳剤

特長

- 速効的で長い残効性を持っています。
- 野菜・果樹・花の多くの作物と害虫に使用できます。

【有効成分】 エトフェンプロックス (PRTR法第1種) ……20.0%
【その他PRTR該当成分】 エチルベンゼン (PRTR法第1種) ……37%
 キシレン (PRTR法第1種) ……41%

【性状】 淡黄色澄明可乳化油状液体 **【毒性】** 普通物* **【危険物】** 2石-Ⅲ

【有効年限・包装】 5年・500mL×20、100mL×60

*普通物：「毒物及び劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

トレボンは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

適用病害虫・使用方法

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックス	
稲	-	コブノメイガ	1000倍	60~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	-	3回以内	
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イナゴ類	1000~2000倍						
		カメムシ類 イネミズゾウムシ	2000倍						
		ウンカ類	300~600倍						
		ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	300倍						
		カメムシ類	600倍						
小麦	-	ヒメトビウンカ アブラムシ類	2000倍	60~150 L/10a	2回以内	2回以内	2回以内		
とうもろこし	-	アワノメイガ アワトトウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	4回以内		
かんきつ	-	コアオハナムグリ ケシキスイ類	1000~2000倍	200~700 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	
マンゴー	ミカンハモグリガ								
キャベツ	チャノキイロアザミウマ								
はくさい	-	アオムシ、コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	2回以内		
だいごん	シロイチモジトウ	2回以内	2回以内						
ねぎ	アブラムシ類	収穫14日前まで	3回以内						
レタス	アブラムシ類 コナジラミ類	収穫3日前まで	3回以内						
すいか	アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ	1000倍	収穫前日まで		4回以内				
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類		収穫3日前まで		4回以内				
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1000倍	収穫前日まで	4回以内	4回以内				
にがうり	-	アブラムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類 カメムシ類 ウリノメイガ	1000~2000倍	-	-	3回以内	3回以内		
かぼちゃ	コナジラミ類								
なす	アブラムシ類	1000~2000倍						収穫前日まで	2回以内
トマト	コナジラミ類	2回以内						2回以内	
ピーマン	アブラムシ類	3回以内	3回以内						
オクラ	アブラムシ類 カメムシ類	1000倍	-	-	-	3回以内	3回以内		
さやえんどう	シロイチモジトウ ヨトウムシ								
美えんどう	ウラナミシジミ								
さやいんげん	ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ							収穫開始7日前まで	2回以内
えだまめ	マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ	1000~2000倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内				
未成熟ささげ	アブラムシ類	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内	3回以内				
ばれいしょ	アブラムシ類	1000~2000倍	-	-	-	3回以内	3回以内		
かんしょ	ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ							収穫7日前まで	
さといも	ハスモンヨトウ							収穫14日前まで	3回以内
さといも(葉柄)	ハスモンヨトウ							収穫7日前まで	3回以内
やまのいも	-	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000倍	-	-	-	散布		
やまのいも(むかご)	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ								
豆類(種実、ただし、だいず、あずきを除く)	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ								
だいず	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ	2回以内						2回以内	
あずき	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ ノメイガ類	1000倍	-	-	-	-	-		
しょうが	ハスモンヨトウ							収穫7日前まで	3回以内
葉しょうが	コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ							収穫14日前まで	3回以内
ふき	ヨトウムシ	1000~2000倍	1回	1回					
てんさい	アザミウマ類	1000倍	根株養成期 但し、 収穫45日前まで	2回以内	2回以内				
もろヘイヤ	アブラムシ類	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内				
うど	アブラムシ類	1000倍	収穫21日前まで 但し、伏せ込み栽培 は伏せ込み前まで	3回以内	3回以内				
あしたば	アブラムシ類	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	3回以内				
みつば	アブラムシ類	1000倍	収穫21日前まで 但し、伏せ込み栽培 は伏せ込み前まで	3回以内	3回以内				
茶	-	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	2000倍	200~400 L/10a	摘採21日前まで	2回以内	2回以内		
たばこ	-	タバコガ ヨトウムシ	1000~2000倍	25~180 L/10a	-	-	-		
樹木類(つつじ類、ポインセチア、ソテツを除く)	-	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	100~700 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布		
つつじ類	オビカレハ	2000倍	-						
ポインセチア	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	幼虫発生期						
ソテツ	オビカレハ	2000倍	-						
宿根かすみそう	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	幼虫発生期						
りんどう	オビカレハ	2000倍	-						
きく	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	幼虫発生期						
カーネーション	オビカレハ	2000倍	-						
トルコギキョウ	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000倍	幼虫発生期						
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	2000倍	60~150 L/10a	-	3回以内	3回以内		
せり	水田	アブラムシ類	1000倍	100~150 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	2回以内		
せり(水耕栽培)	ガラス室等の施設	アブラムシ類	1000倍	100~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	3回以内		
みずいも	水田	オキナワイナゴモドキ	1000倍	100~150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	3回以内		

■については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意

- (1)使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2)蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3)散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。
- (4)ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用の場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (5)本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
- (6)ねぎのシロイチモジトウの防除に使用の場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (7)きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用をさけること。
- (8)せり(水耕栽培)に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (9)本剤を本田の水稲に対して希釈倍数300~600倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度運動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (10)本剤は自動車等の塗布面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (11)本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1)誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2)本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3)原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4)散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
- (5)作業後は手等、顔などを石けんでよく洗い、洗面・うがいをすること。
- (6)街路、公園等で使用の場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1)水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こす恐れがあるので、十分注意すること。
- (2)散布後は水管理に注意すること。
- (3)使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。